

コミュニティマネジメント・リサーチ説明資料

(秋学期 / 金曜 / 3限 / 水野・保井)

■ 講義の狙いと目的

この講義は、地域やコミュニティの現状・課題に関する問いを組み立て、現地フィールド調査を実施するための調査方法や調査技法を、教員との個別指導を通じて具体的に探っていく科目です。コミュニティマネジメントを学ぶために必要な基本的な視点、姿勢(マナー)、技法等を修得することを目標とします。担当教員の指導(2019年度は、水野雅男・保井美樹の2名体制+TA)のもとで、地域やコミュニティの現状に関するデータ収集、質問票の作成ののち、現地調査を実施し、それをまとめながらコミュニティ再生のための方策を考察して、報告書をまとめることをミッションとします。

■ 2018～2019度の主な「テーマ」と「調査フィールド先」例

- ✓ 「町並みを活かした地域の魅力向上」(奈良県宇陀市／松山地区はならあと実行委員会)
- ✓ 「住む町」としての都市郊外の課題とサステナビリティ」(神奈川県緑区／若葉台自治会ほか)
- ✓ 「都市と地方を繋ぐ拠点づくり」(株式会社 OReNAS、Tomoshihi)
- ✓ 「地元住民と「よそ者」の対話」(島根県海士町／移住者と住民)
- ✓ 「ソーシャルムーブメントの起こし方」(ミズベリングプロデューサー)
- ✓ 「全面喫煙可能カフェの実態」(神保町の6つのカフェ)
- ✓ 「廃校をどう活用するか」(立川市／たまがわ・みらいパーク／たちかわ創造舎)
- ✓ 「空き家の管理と利活用」(東村山市役所／NPO 法人空家・空地管理センター)
- ✓ 「Jリーグクラブと地域コミュニティ」(株式会社川崎フロンターレ／川崎フロンターレ後援会)
- ✓ 「サードプレイスの探求」(国立市/カフェこたの)
- ✓ 「食品ロスはどうなくすか」(多摩市/NPO 法人シェアマインド)
- ✓ 「修景事業とまちづくり」(長野県小布施町)、ほか

* テーマ設定は、「とことん知りたい!」と思うものを自分で見つけることから始まります。

■ こんな人に向いています

- ✓ 地域で起きている問題や社会現象について、自らフィールドに足を運んで探求したい人
- ✓ 報告書を作成するプロセスを通して、文章力を向上させたい人
- ✓ 卒業論文等で使える調査技法(インタビュー法や参与観察法)を学び、調査能力を向上させたい人
- ✓ 2名の教員からいろいろなコメントをもらうプロセスを通して、多様な専門知識を習得したい人
- ✓ フィールドに入って行く際の、マナーやお作法等を身につけたい人
- ✓ 毎回の講義に出席し、自分に与えられたテーマ報告や調査報告をしっかりと行える人

■ その他(注意)

この講義の定員は最大20名です(定員オーバーの場合、秋学期ガイダンス時に提出書類に基づき、人数調整があります)。また、11月中に大学での講義がない「調査期間」を設定しています。詳しくは、9月の初回ガイダンス時(要出席)の資料で確認してください。また、初回ガイダンス時には、自分が調査してみたい「テーマ(案)」や「フィールド先(案)」についてのレジюмеを持参することが必要です。関心をもった新聞記事・雑誌記事等を添付の上、興味をもった理由やその問題の背景をA4で1ページ程度にまとめ、3セット印刷(教員+TA分)して持参してください。

2020年度（新型コロナ対応改訂版） コミュニティマネジメント・インターンシップ 履修案内

国内外の現場での実践を通して、事業〈仕事〉の実情を知り、
社会の課題解決策を自ら導き出すスキルを身につけます。

※今年度に限り、新型コロナウイルス対応のため、派遣先の設定や派遣時期について方針を変更し、状況に応じてプログラムを進める予定です。以下の内容をよく読んで、履修を検討してください。

■インターンシップのねらいは？

卒業後、民間企業や地方公務員など様々な職種に就いて、社会で活躍するためには、直面する課題を把握し、解決に導く新たな企画を生み出すプロジェクト・マネジメント能力が不可欠です。

コミュニティマネジメント・インターンシップでは、コミュニティ分野・社会福祉分野の枠組みを超えて、地域社会の課題に対して多面的なアプローチを図っている多様な現場に積極的に出向きます。

①現場で働く「仕事人」を通じて、コミュニティマネジメントの事業の実情を知る。

②現場に身を置きながら、社会が直面している課題を探り当て、その解決に向けた道筋を描き出す。

③数人のグループで現場に出向き、実践的なチームワークを体験する。

■コミュニティマネジメント・リサーチや企業インターンシップとの違いは？

CMリサーチは、社会の現状を把握するための多様な調査手法（インタビュー調査、参与観察など）を演習するもので、基本的に学生一人一人が関心のある対象を選び調査に出かけます。

企業インターンシップは就職活動の一環として一日／数日間行われているもので、企業の説明が主体で、その業務を実体験することはほとんどなく、本来のインターンシップとは別物です。

■派遣先は？

国内外のコミュニティマネジメントに取り組んでいる組織や団体、まちづくり会社、様々なNPO法人、国際支援に取り組むNGOなどです（変更の可能性あり）。

国内：派遣先4～6団体（20名前後） 海外：派遣先1団体（10名まで）

なお、新型コロナウイルスによるフィールド活動の制約あるいはその他影響が続く場合、大学近郊にある関係団体に派遣先を変更したり、関係団体とのオンラインによるヒアリングや意見交換を行う形に変更する場合があります。

■どんどこでインターンシップをしているの？

2019年度履修者の実習先は以下のとおりでした。



コミュニティカフェはなかふえ
京都府京都市



公益財団法人モリウミアス
宮城県石巻市



奥能登すず体験宿泊施設木ノ浦ビレッジ
石川県珠洲市



檜枝岐村
福島県南会津郡檜枝岐村



NPO法人泉京・垂井
岐阜県不破郡垂井町



Enjoyable English
ベトナム社会主義共和国・フエ市

■インターンシップでは何をしますの？

[春学期]

履修生の要望を聞き、3人～5人程度（国内）、10人程度（国外）にグループを構成し、教員が提示する派遣先を決定します。それぞれの派遣先でのインターンシップのプログラムを勘案して、各自が調査するテーマを検討し、さらにそのテーマに関する情報収集整理を行います。

なお、春学期は担当教員と「**双方向オンライン型**」で進める予定です（Zoom使用）。

[夏休み]

現時点では、夏休み中の派遣先での活動を見合わせる方針です。

[秋学期]

実際の活動は秋学期に行うことを想定しています。グループごとに週末などを活用して派遣先に滞在しながら、その団体の業務支援（作業の手伝いなど）を行います。その中で、各自が抱えている派遣先の問題関心（コミュニティマネジメントの課題や団体のマネジメントなど）についてそれぞれ調査し、データを収集します。調査収集したデータを整理し、必要に応じて追加調査も行いながら、報告書にとりまとめます。さらに、プレゼンテーション資料も作成して、報告会で発表します。

■履修条件・先行履修要件は？

福祉コミュニティ学科の新2・3年生が受講できます。「コミュニティマネジメント・リサーチ（2年生から）」、「ソーシャルワーク実習（3年生から）」も併せて受講することができます。

先行履修科目：「基礎演習」「フィールドスタディ入門」

■科目構成と単位

コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ（春学期・2単位）

コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ（秋学期・2単位）

■担当教員の研究テーマ

関司直也教授 農山村における地域マネジメント、外部人材と共働する地域づくり

佐野竜平准教授 東南アジア（アセアン）地域における障害インクルーシブな国際協力・開発

野田岳仁准教授 現場に暮らす生活者の立場からの地域づくり・地域ツーリズムの探究

■履修生の人数枠と選抜方法

3名の教員が担当するのは最大30名です（教員1人あたり原則10名、変更あり）。履修志望（志望動機、問題関心のあるキーワード、派遣先の国内外の希望等）が記載された書類にて選考を行います。選抜に関する予定スケジュールは以下のとおりです。

4/23（木）17時まで

別紙の「2020年度コミュニティマネジメント・インターンシップ履修志望票」をメールに添付して、指定されたアドレス（fukushi@hosei.ac.jp）に提出してください。なお、メールの件名は、「【CMインターンシップ応募】学生証番号・氏名」としてください。志望票提出を以て第1回講義の参加とします。

4/25（土）17時まで

選抜結果をメールで通知します。

履修登録申請期間終了まで

選抜された人は指定の期間（4/21～4/27 各日 10:00～26:00）内に履修登録をしてください。

5/7（木）5限

全体で行う初めての講義日になります。事前に学習支援システム（Hoppii）を確認し、指定された場所へオンラインで参加するようにしてください。

その他質問があれば、2020年度担当教員（関司、佐野、野田）まで気軽に相談してください。